中2 理科 ポイント　　名前＿＿＿＿＿＿＿＿

地球 5 雲のでき方

＿＿＿月＿＿＿日

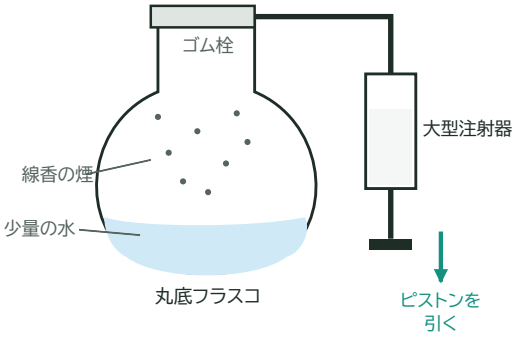
まとめ 雲ができるしくみ

空気が**上昇**すると、上空は気圧が低いので、空気は**膨張**して温度が下がる。温度が**露点**より低くなると、水蒸気が水滴になる。

雲は、水滴や氷の粒が集まって空に浮かんだものである。地表付近で水蒸気が冷やされて水滴になると、**霧**ができる。

● 雲のでき方は「上昇 → 膨張 → 温度が下がる → 露点以下 → 水滴・氷の粒」の順。

実験 雲をつくる実験



ピストンを引くと、フラスコの中の気圧が下がり、空気が膨張して温度が**下がる**。そのため水蒸気が水滴になり、くもる。

線香の煙は、水滴ができるときの**核**になる小さな粒である。

① 丸底フラスコに少量の水と、線香の煙を入れる。
② 注射器のピストンをすばやく**引く**と、フラスコの中が白くくもる。
③ ピストンを押しもどすと、くもりが消える。

まとめ 上昇気流のできるところ

場合	空気の動き
前線付近	暖気が寒気の上にはい上がる（寒冷前線では寒気が暖気をおし上げる）
低気圧の中心付近	まわりから風が吹きこみ、中心で空気が上昇する
山の斜面	風が斜面にそって空気をおし上げる
日光で地面があたためられたとき	あたためられた空気が軽くなって上昇する

例題 水の循環

海や陸の水は、太陽のエネルギーで蒸発して水蒸気になり、上空で雲になって、雨や雪として地表にもどる。水は、形を変えながら地球上を**循環**している。

(1) 空気が上昇すると、気圧はどうなるか。

上空ほど気圧が低いので **低くなる**

(2) 霧と雲のちがいは何か。

できる場所だけがちがい、霧は**地表付近**、雲は**上空**でできる

ちりつもドリル 学校・家庭・塾・教室での印刷と配布は自由です。ウェブへの掲載・販売はできません。